

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	くろかみ学園児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 10日		～ 令和 7年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	142	(回答者数) 93
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	クラスの職員間で連携が出来ていることです。支援方法について、職員間で話し合いを密にしています。	クラス担当制を取り入れ、複数の職員で連携して支援が行えるように取り組んでいます。	サービス提供日に公休の職員もいるため、情報共有・伝達に遅れが出る場合があります。朝礼や引継ぎノートで確認をしています。
2	職員がお子様一人ひとりと真摯に向き合い、前向きに支援を行っているところです。	お子様の気持ちを受容し、強み弱みを把握して支援にあたっています。出来たことを大いに褒めて、自己肯定感を高めるように支援しています。	保護者様や園の先生と共通した支援が行えるよう取り組んでいます。
3	手厚い職員配置です。基準は4:1配置ですが、実際は全体で2:1程度の配置をしています。(クラスで配置は異なります。)	毎回、クラスの配置職員数を確認し、不足しているところは他のクラスからの応援体制をとっています。	放課後デイが朝から利用される日や休憩回しの時間帯などで配置が薄くなる場合があります。職員募集をおこない、更なる充実に取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校休業日など、放課後デイと並行してサービスを提供する日には、職員配置が厳しいことです。	多機能型として運営していることが要因です。また、職員の経験年数等に差があり一人でも把握が上手くできる職員と、まだ難しい職員がいることも要因です。	外部研修への参加など、職員ひとり一人の支援技術のレベルアップに取り組んでいます。職場内OJTを取り入れ、向上心を持って支援に取り組める環境作りに努めています。
2	契約児の数が多く、職員間での情報共有が難しいことや利用回数の制限があること、送迎エリアが広く箇所が多いことです。	当センターの利用を希望される方を、毎月新規で受け入れていることが要因です。	朝礼や引継ぎノートを活用して情報共有が行えるよう取り組んでいます。保育所等訪問支援事業を活用して、園での生活がスムーズに送れるように取り組んでいます。送迎車を数多く準備して、効率の良い送迎を心掛けています。
3	保育園等への送迎が多い為、保護者様と直接お話しする機会が少なく情報共有が難しいことです。	園との併行利用のお子様が多いこと、働いている保護者様が多いことで園への送迎が主流となっていることが要因です。	保護者面談や療育参観、児童発達新計画の説明の際などに保護者様とお話しする機会を設定しています。連絡帳の活用や必要に応じて電話連絡をしています。